

～明石市水道事業の経営状況とこれから～
市民説明会 第4回

[開催結果]

1. 開催概要

日時：2025年（令和7年）5月30日（土）午後3時00分～午後4時30分

場所：大久保市民センター 2階 第2・3会議室

2. 参加者

10名（市民：9名、議員：1名）

3. 主催出席者

8名

4. 説明内容

- （1）明石市水道事業の概要
- （2）現状と課題
- （3）課題に対する解決策
- （4）審議会が出た意見と今後のスケジュール

5. 開催状況



6. いただいた意見の要旨

※下線あり…説明会終了後、参加者にご意見等記入用紙に記入いただいた内容

【水源・水量】

(水源)

- ・阪神水道企業団からの受水について、神戸市との協議が重要になるので、適切に進めてほしい。
- ・昔から明石市の水はおいしかったが、阪神水道企業団の水源は淀川河川水であるため、おいしくないのではないかと。また、なぜ淀川の水を明石まで持ってくる必要があるのか。
- ・地下水は、安くておいしいので、もっと使用するために、深井戸の数を増やしてはどうか。
- ・地下水の塩水化の原因を解明して、塩水化対策を実施すべきと考える。
- ・明石川河川水を野々池・亀池に貯水していることに驚いた。また、明石川からの取水を取りやめることにより、野々池が不要になることが理解できた。
- ・普段、あまり飲み水として使用していないが、明石市の水がおいしい理由がわかった。

(水量)

- ・水道使用量が年々減少していることを初めて知った。
- ・明石川からの取水をやめて、野々池を廃止した場合、将来的な市民への配水量は確保できるのか。

【水質】

- ・P F A Sを除去するための活性炭処理に、多額の費用を要することは問題と考える。
- ・P F A S対策として、濃度が高くなる原因を排出していると思われる企業に対する調査などを実施しないのか。また、企業にそれなりの責任を負ってもらうよう、規制等を強化すべきである。

【水道料金】

(体系の適正化)

- ・水道料金を値上げするために、料金体系の変更が必要である。その際にメーター口径 25 mm以下の水道料金の回収が論点になるが、市民に対して、どのように理解を得ていくかが課題である。
- ・これまでの右肩上がりで人口・水道使用量が増える時代から、これからの右肩下がりで人口・水道使用量が減る時代を考慮して、料金体系を変更することは必要なことである。
- ・水道料金の値上げは、経営上致し方ないことは理解できるが、世帯数や値上げ幅など、一般家庭にどれくらい影響があるのか知りたい。
- ・メーター口径 25 mm以下で、使用量 20m³／1 か月の水道料金が安いことは、市民としてはありがたいが、原価割れの経営は決して健全ではない。

- ・ 安価でおいしい水であるが、コストが掛かるのであれば、それなりの適正価格とすることはやむを得ない。
- ・ 水道事業は、公営企業であり、水道料金の収入で運営しており、値上げを検討することは当たり前である。
- ・ 電気・ガスなどの値上げがあるなかで、使用量 20m³／1 か月を値上げして、21 m³／1 か月以上を値下げすることは、一般市民より民間企業を優遇することになるため、心情として理解に苦しむ。

(検討時期)

- ・ 令和 8 年 3 月に審議会から市に答申があった後、水道料金値上げが議論される際に、値上げの必要性や値上げ幅等について、市長はどのような判断をするのか。
- ・ 具体的にいつ水道料金が変更になるのか知りたい。

(その他)

- ・ 明石市は、他市町に比べて、水道料金が安いのでありがたい。
- ・ 明石市の水道料金が、他市町に比べて、安価であることを理解した。

【水道経営】

(経営改善)

- ・ 明石川からの取水がなくなれば、野々池が不要になるなど、今後遊休資産ができるのであれば、売却するなど活用してはどうか。
- ・ 国から財政的な支援を得られるようにすべきである。
- ・ 市内に立地する民間企業を増やすことにより、水道事業の収入を増やすことができないか。
- ・ P F A S の活性炭処理にコストを要するのであれば、活性炭を再利用するなど、経費を削減する方法は検討できないのか。

(民間委託)

- ・ 約 20 年間で、職員数が半減しているのは驚きである。職員数を維持もしくは改善していかないと、持続的な経営ができない。
- ・ 今以上に、職員のマンパワーを充実化すべきである。

(新型コロナ)

- ・ 令和 2 年新型コロナによる基本料金の免除は、水道経営にどのような影響を与えたのか。

(その他)

- ・ 市が抱えている課題をもっと具体的に説明してもらいたい。そうすれば、市民と膝を突き合わせた議論ができると考える。
- ・ 大口の水道使用者が減少していることに対して、市はどのように認識している

のか。

- ・民間企業が独自の地下水や工業用水を使用することを防ぐことはできないのか。
- ・水道事業の経営に、市の税金が投入されていないことを初めて知った。
- ・将来的には、下水道使用料も値上げとなるのか。
- ・民間企業がコスト面を重視し、循環水などを使用しているため、水道事業の収入が増えないことを理解した。

【施設の更新】

(管路)

- ・予防保全と事後保全の考え方は理解するが、漏水や道路陥没などが起きた際に、速やかに緊急対応を行う体制を整えてもらいたい。
- ・水道事業が厚生労働省から国土交通省に移管されたので、これからは水道管の老朽化対策にも注力していくと考える。
- ・費用比較等により、できる限りリーズナブルな方法で管路更新をしてほしい。
- ・管路更新をスムーズに実施できるよう、革新的な技術を検討すべきである。
- ・審議会で議論している管路の更新パターンがベターと考える。

(その他)

- ・飲料水と洗濯などの生活用水に分けた2系統で、各家庭に配水することはできないのか。
- ・明石市は、水道も含めたライフラインをもっと充実させるべきである。
- ・地下水は、塩水化に加えて減少傾向であるにもかかわらず、市内西部では、今後も地下水に依存するため、魚住浄水場は更新工事を行うのか。
- ・施設の更新に要する費用は、どのように工面するのか。
- ・施設の更新費用は、国・市・市民がバランスよく相応に負担することで、何とか維持できないのか。3者が協力しないと、ライフラインが充実した住みやすい都市を実現できないと考える。

【その他】

(説明会)

- ・水道事業について、わかりやすく説明をしていただいた。今後も安全で安心な水の提供をよろしくお願いします。
- ・いろいろと勉強となり、感謝する。
- ・水道事業に対して、市民から意見や要望を伺うことについて、若干無理がある
と考える。

以上